

## 九州支部

きさだけでなく形にも注意する必要があると思われた。

### 9. 超音波検査による肺癌の胸膜浸潤に関する検討

長崎大学第一外科

君野孝二, 綾部公懿, 田川 泰川原克信, 母里正敏, 石橋経久  
横山忠弘, 山下三千年  
太田勇司, 宮下光世, 山田康治  
富田正雄

19例の, 胸壁隣接肺癌症例に, 超音波検査を試み, 手術所見, 組織学的所見における, 胸膜浸潤の対比を行い, 特に, 胸壁浸潤例でその有用性が高いと思われたので報告した。

### 10. 肺癌の放射線治療成績

鹿児島大学放射線科

豊平 謙, 赤崎郁郎, 園田俊秀  
小山隆夫, 篠原慎治

前期(1960年~1975年)は $^{60}\text{Co}$   $\gamma$ 線を用いた, split-course法が採用され, 後期(1976年以降)は10MVX線を用い, 経気管支動脈抗癌剤注入療法(BAI)が併用された。結果: I, II期ではBAI併用群の方に長い生存期間が得られたが, III, IV期では, split-course群により長い延命効果が得られた。

### 11. 肺癌の至適総線量の検討

九州大学医放

荒木昭輝, 神宮賢一, 上原 智  
松浦啓一

同 医中放 増田康治  
同 医短 吉本清一

昭和52年から昭和57年までの6年間で化学療法を併用し, かつ8週6000 rad 相当照射した肺癌患者41名を選び出し, その予後を調べた。その結果, 局所制御率は44%で8週6000 radでは不足と考えられた。

### 12. 空洞型転移性肺癌の一症例

国立療養所再春荘

坂本泰雄, 渡辺友宏, 岩崎健資

### 難波煌治

68才, 男性の胆のう癌に続発し, 多発性空洞化を呈した転移性肺腫瘍の一症例を報告した。本症例における転移巣空洞化の因子として, 腫瘍壊死部の血管周囲には腫瘍細胞が残存することから腫瘍組織の乏血があげられるが, 同時に転移巣の大きさに関係なく, 空洞がみられ, 原発巣も壊死傾向が強いことから腫瘍細胞自体の性質も重要であると考えられた。

### 13. 気管支のう胞に発生した肺癌の一例

長崎市民病院内科

早田 央, 小森清和, 池辺 璋  
中野正心

同 外科 中田剛弘  
同 病理 松尾健治  
症例は49才女性。胸部X線断層像で $\text{S}_9$ 及び $\text{S}_{10}$ 領域において薄壁空洞を伴う腫瘤影が認められ, 右下葉切除術が施行された。切除肺には, 多房性のう胞を伴った腫瘤がみられた。病理組織にて, のう胞壁より発生した高分化腺癌と診断された。

### 14. Giant bulla内に発育した肺腺癌の一切除例

国立療養所沖繩病院外科

石川清司, 源河圭一郎

国吉真行

同 内科 久場睦夫  
肺嚢胞症は, 肺癌発生の risk factor として注目されてきた。われわれは Giant bulla 内に発育した肺腺癌の一切除例を経験した。症例は, 66歳の男性。重度喫煙者。労作時の息切れを主訴として来院した。胸腔の約半分を占める $\text{N}^6$ 発生の単発の巨大 bulla内に発育した $\text{T}_1\text{N}_0\text{M}_0$ , stage I の低分化腺癌であった。

### 15. 右下葉の無気肺像を呈した細気管支肺胞上皮癌の2例

琉球大学医学部第一内科

兼島 洋, 下地克佳, 森根 優  
大宜見辰雄, 金城勇徳  
中富昌夫, 小張一峰

国立療養所沖繩病院内科

豊見山寛, 久場睦夫

細気管支肺胞上皮癌のX線像としては孤立性または多発性結節影, びまん性浸潤影, 肺炎様陰影などの報告が多い。最近我々は太い気管支の狭窄, 閉塞を伴わない右下葉の無気肺で発見されたる2症例を経験したので文献的考察を加え報告する。

### 16. 膿胸を合併した早期肺癌症例

長崎大学第1外科

山下三千年, 綾部公懿  
川原克信, 母里正敏, 石橋経久  
田川 泰, 君野孝二, 横山忠弘  
宮下光世, 山田康二, 富田正雄  
長崎市立成人病センター  
岩崎博圓

咳, 痰, 発熱で初診, 胸部レ線検査で膿胸を診断された65才の男性が入院後の連続喀痰細胞診で扁平上皮癌を診断され, 右下葉切除術兼剥皮術を施行。組織学的検査で $\text{B}^{10}$ に原発する肺門型早期肺癌であった。文献的考察を加えた。

### 17. Occult Lung Cancer の2例

国療沖繩病院外科

源河圭一郎, 石川清司

症例1 63歳男 B.I.700, 主訴血痰。胸部X線像正常。痰細胞診Class V。右 $\text{B}^7$ 入口に結節状腫瘤。中下葉切除。扁平上皮癌。腫瘍はわずかに隣接肺に浸潤。肺門部準早期癌。

症例2 58歳男 B.I.750, 主訴血痰。胸部X線像正常。痰細胞診Class V。中幹に結節状腫瘤。中下葉切除。扁平上皮癌。肺門リンパ節転移あり。Stage II。

### 18. 肺門部早期肺癌の一例